

異世界に来て一年半。。。

始めは不安で仕方がなかったが程度はあれ
異常な回復力があるこの身体と何故か多種多様な言語を理解できる
割とチートな能力のお陰で今はなんとかフリーの冒険者として
日銭を稼ぐくらいには生活が安定してきた。

今日は遠征で結構な報酬のクエストをクリアした
甲斐があつていつもより懐に余裕がある。
折角大きな町に来たわけだし
野宿じゃなくて手頃な宿で一休みしたい。



と、思いついたらさっさと逃げようのぞき
見て二杯のたぐいませぬが中屋をいれたる。

「今日は結局野宿かまぬぬ」

困り果てたらと二人の早急な声を掛けられる。

「そのお嬢ちゃん、さよなら」

「さよなら」

早急はさっさと見てみるにうさぎはさっさと
私を見て目を配って声を掛けられてはさっさと

見た目的に魔女？のような姿ながらも人間種ではな
でも顔立ちは優しそうなお姉さんだったので
こちらの事情を話してみることにした。



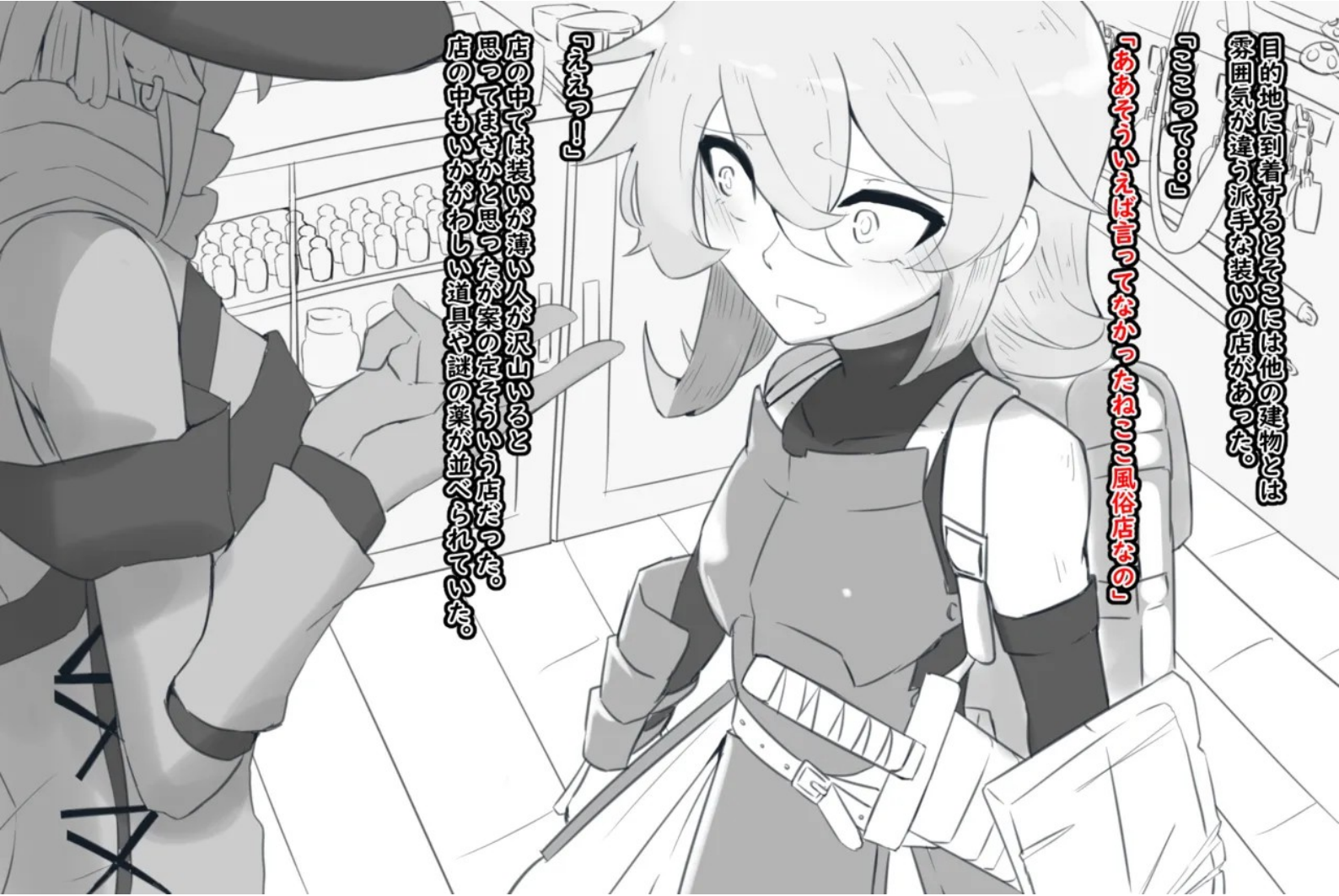
目的地に到着するとそこには他の建物とは
雰囲気が違う派手を装いの店があった。

「……」

「ああそういえば言っただけだったねここは風俗店なの」

「ええっ！」

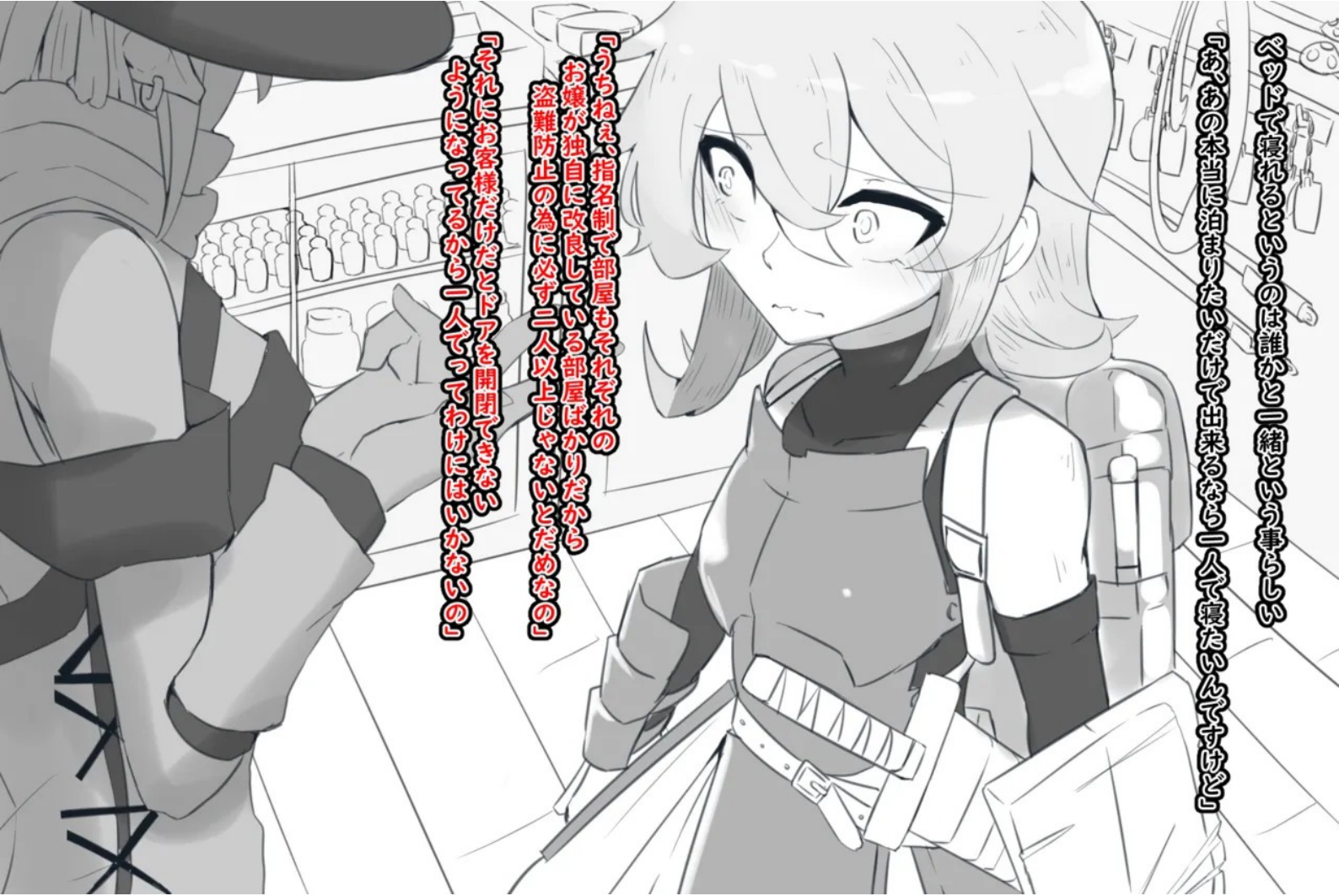
店の中では装いが薄い人が沢山いると
思ってたよかと思っただけ案の定そういう店だった。
店の中もいかげんらしい道具や謎の薬が並べられていた。

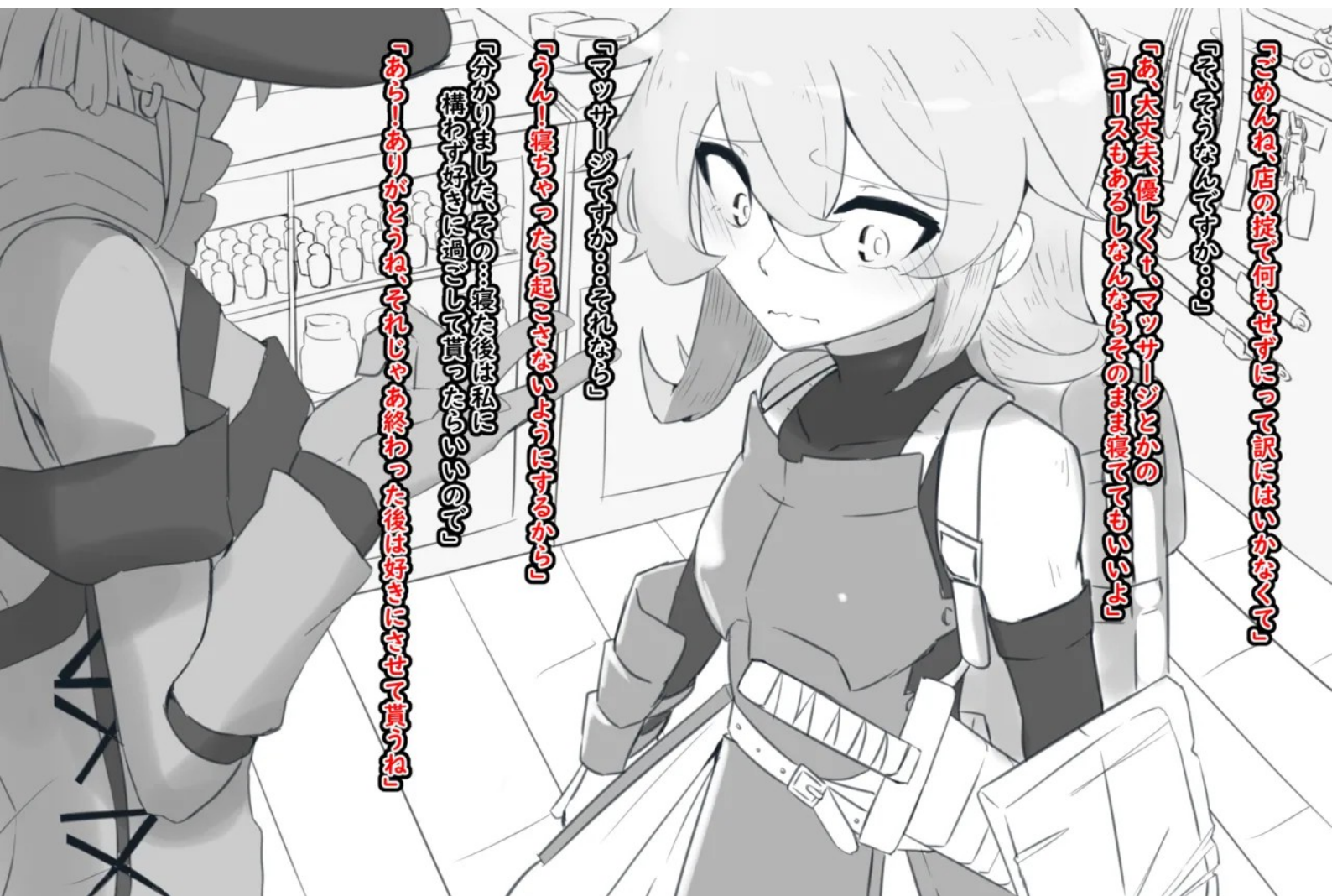


「あんなに寝たいだけ出て来るなら二人で寝たいんですけど」

「あんなの本当に泊まりたいだけで出来るなら二人で寝たいんですけど」

「うちねえ、指名制で部屋もそれぞれの
お嬢が独自に改良している部屋ばかりだから
盗難防止の為に必ず二人以上じゃないとダメなの」
「それにお客様だけだとドアを開閉できない
ようになっているから一人であってわけにはいかないの」





「いめんね、店の扱って何もせずだった訳にはいかなくて」

「……どうですか？」

「あ、大丈夫、優しくな、マッサージとかの」

「コースもあらしなんならそのまま提供していいから」

「……さあ……さあ……」

「うんー寝ちゃったら起こさないとしようにするから」

「分かりましたその……寝た後は私に」

「構わず好きなだけ遊んで貰ったから」

「あらーありがとうございます、それじゃあ終わった後は好きにさせて貰うね」

健全なマッサージを軽くした後、お嬢ちゃんは長旅の疲れがあったのかあっさり眠りについた。

「それとも先に飲んだ紅茶が効いたのかしら」

「つんつんとほっぺを突くとんん…と眉を擡めながらも目を開ける事はなく安定した呼吸だけが響く。」

「さてと、まずは起きないように覚醒阻害の魔法を掛けておきましょうか」

手をかざして呪文を唱えると紫色の光が発し

小さい冒険者の身体を包み込む

これで私が解除するまで意識を取り戻すことはない。

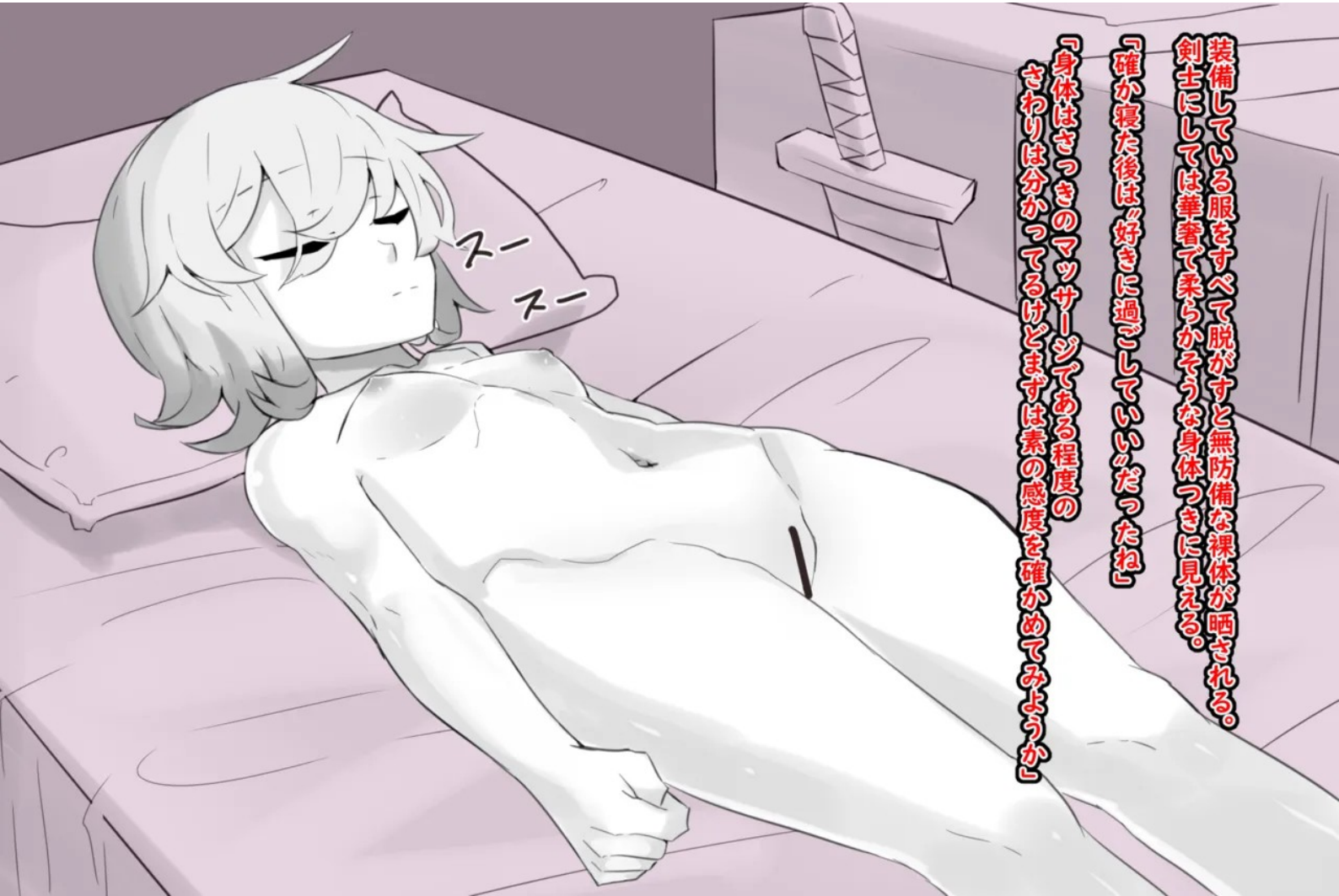
「これで大丈夫、まずは洋服ぬぎぬぎしましょうね」



装備している服をすべて脱がすと無防備な裸体が晒される。
剣士にしては華奢で柔らかそうな身体つきに見える。

「確か寝た後は、好きに過していいだったね」

「身体はさっきのマッサージである程度の
さわりは分かってるけどまずは素の感度を確かめてみようか」



内ももからゆっくりと指を這わせる、
神経を逆なでしつつ大陰唇をなぞる様に弄る、
性器を優しく刺激しながらほんのり実っている
乳房にも押し付けられない程度のかたて表面を撫でる。

「ここから先激しくなるから、最初は優しくね」

そう呟きつつ全身を撫でまわしていくと徐々に声が漏れだしてくる



じっくりと前戯を続けていると身体に変化が表れ始める。
顔は頬を赤らめ、身体からは汗が滲み出る。
性器を弄っていた指にねっとりとした液体が
名残惜しそうに糸を絡めていた。

へばり付いた愛液を乳首に撫てまわしながら擦りつける

ツ-♡

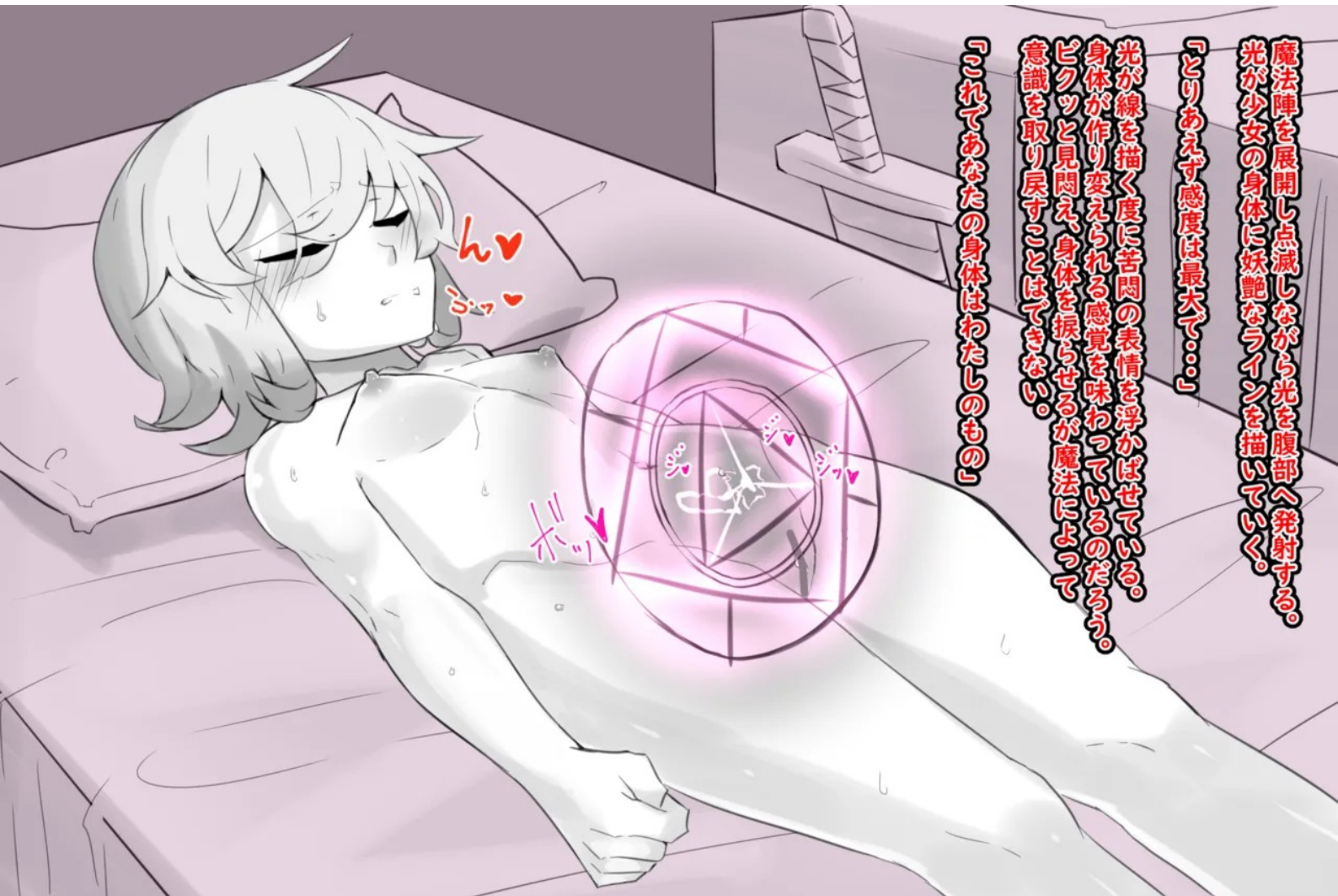
フ-
フ-

「感じる?こんなに濡らして、身体は正直ね」

耳元で囁き膨らんだ乳首をくりくりとこねくり回す

「でも愛撫はコンスタントからはお楽しみみのマッサージ(調教)コースだよ」



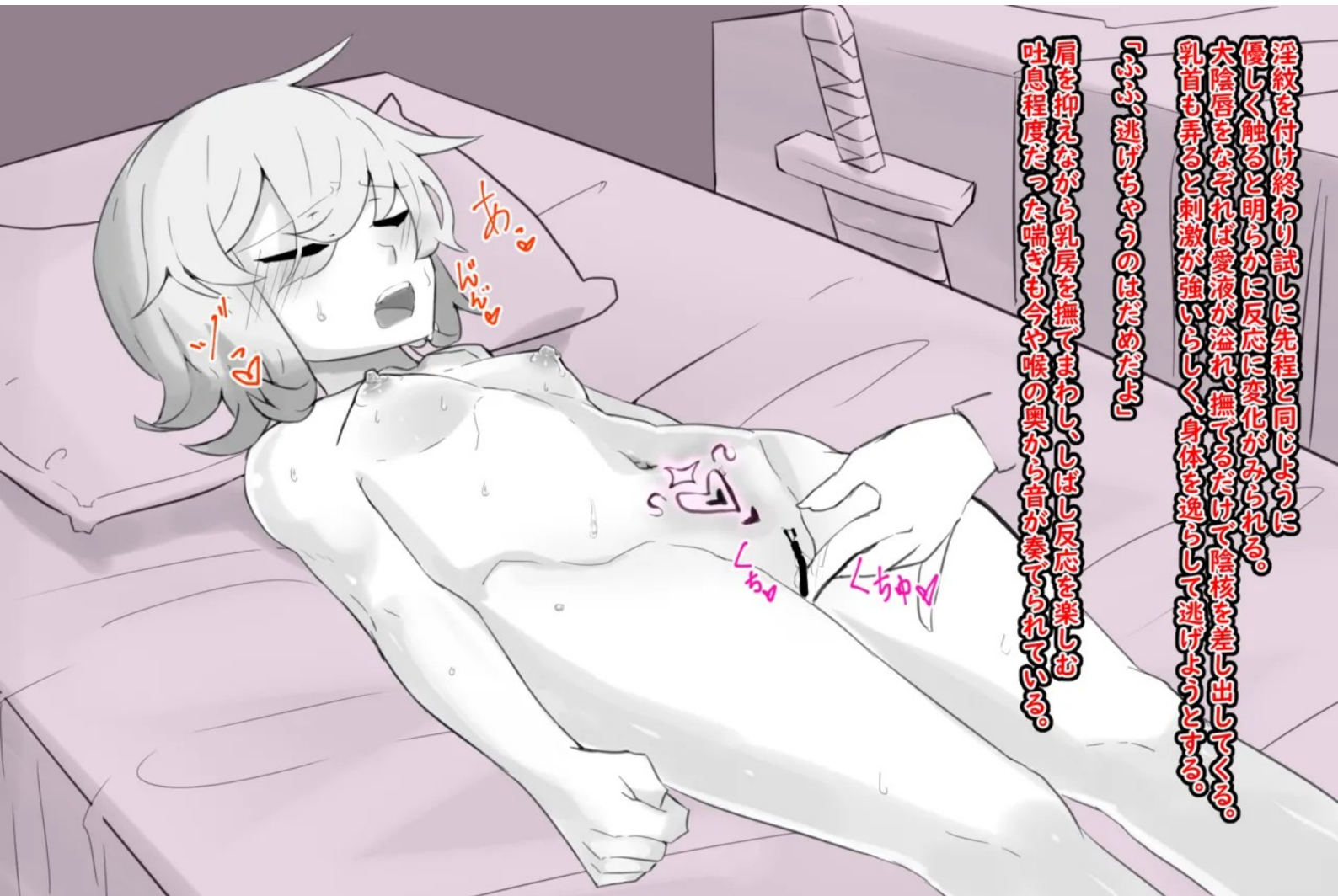


魔法陣を展開し点滅しながら光を腹部へ発射する。
光が少女の身体に妖艶なラインを描いていく。

「とりあえず感度は最大で…」

光が線を描く度に苦悶の表情を浮かばせている。
身体が作り変えられる感覚を味わっているのだろう。
ピクツと見悶え、身体を振らせるが魔法によって
意識を取り戻すことはできない。

「これであなたの身体はわたしのもの」



淫紋を付け終わり試しに先程と同じように優しく触ると明らかに反応に変化がみられる。大陰唇をなぞれば愛液が溢れ、撫てるだけで陰核を差し出してくる。乳首も弄ると刺激が強いらしく、身体を逸らして逃げようとする。

「ふふ、逃げちゃうのはだめだよ」

肩を抑えながら乳房を撫てまわし、しばし反応を楽しむ吐息程度だった喘ぎも今や喉の奥から音が奏でられている。

膣に指を乱暴にねじ込み中を刺激すると顔を左右に降り始めた。限界が近いようで身体が強張っているのがよく分かる。

「もうイキそうなんだね、いいよ思いつきりイっても」

愛液にまみれた指で乳首をつねり上げる。くりくりとこねくり回しながら乳房を回転させるようにこねくり回す。普段なら跳ね上がるような痛みだが淫紋で刺激をすべて快感に変えられている。



「ほら我慢しないで、気持ちいいのだから」

ついに限界を迎えたようで大きく身体を
のけ反らせ盛大に潮を吹きだした。

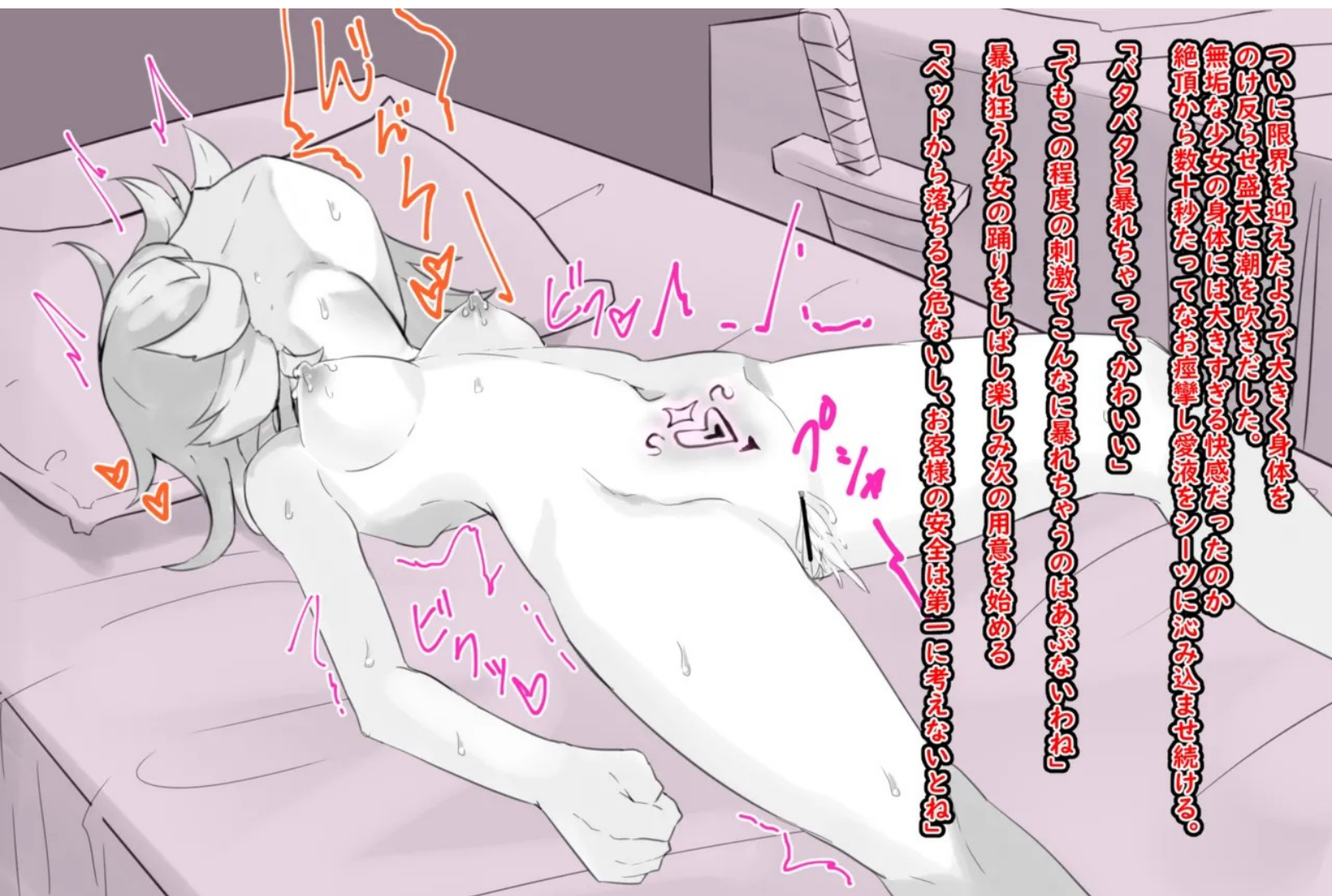
無垢な少女の身体には大きすぎる快感だったのか
絶頂から数十秒たってなお痙攣し愛液をシートに沁み込ませ続ける。

「バタバタと暴れちゃって、かわいい」

「でもこの程度の刺激でこんなに暴れちゃうのはあぶないわね」

暴れ狂う少女の踊りをしばし楽しみ次の用意を始める

「ベッドから落ちると危ないし、お客様の安全は第一に考えないとね」



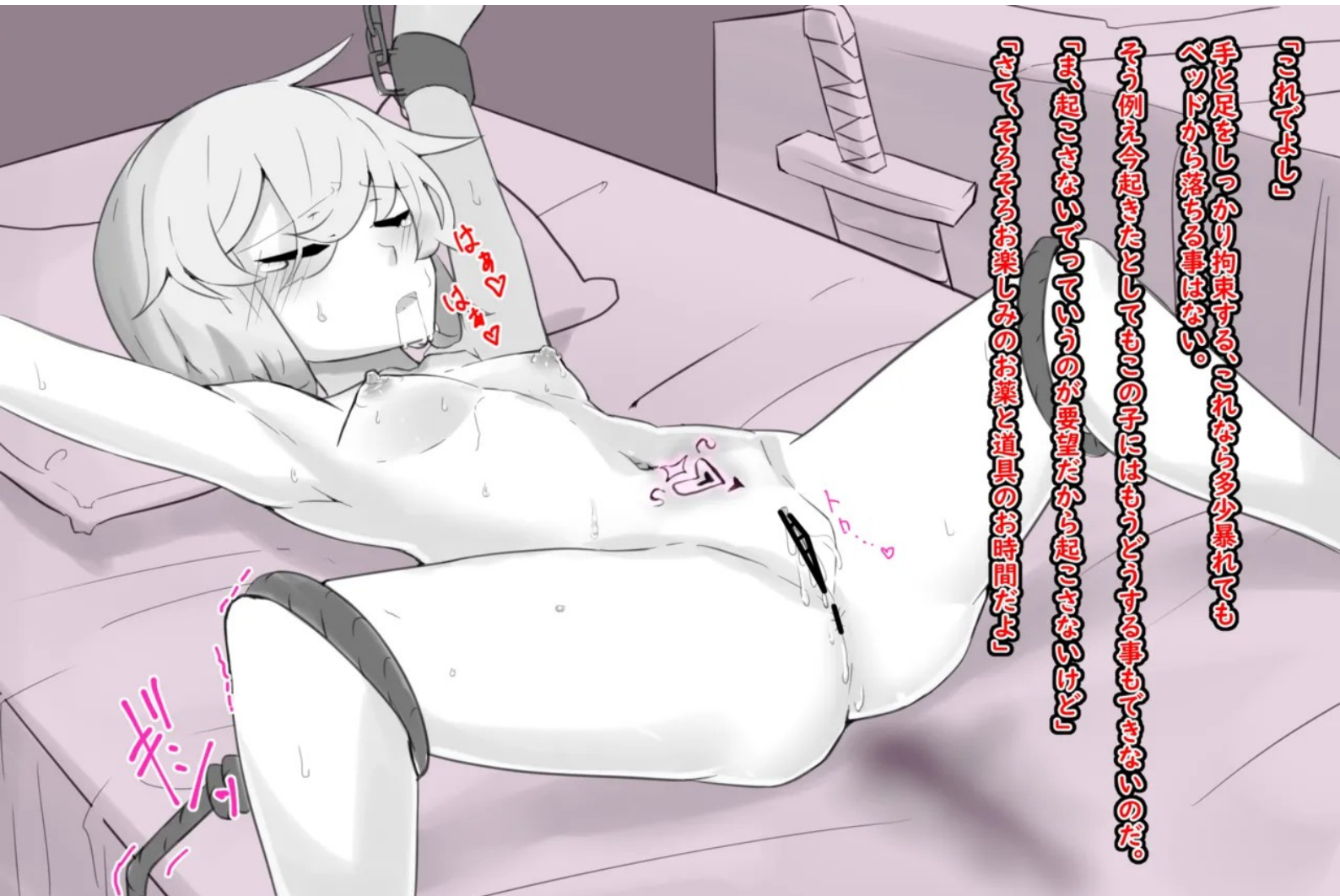
「これでよし」

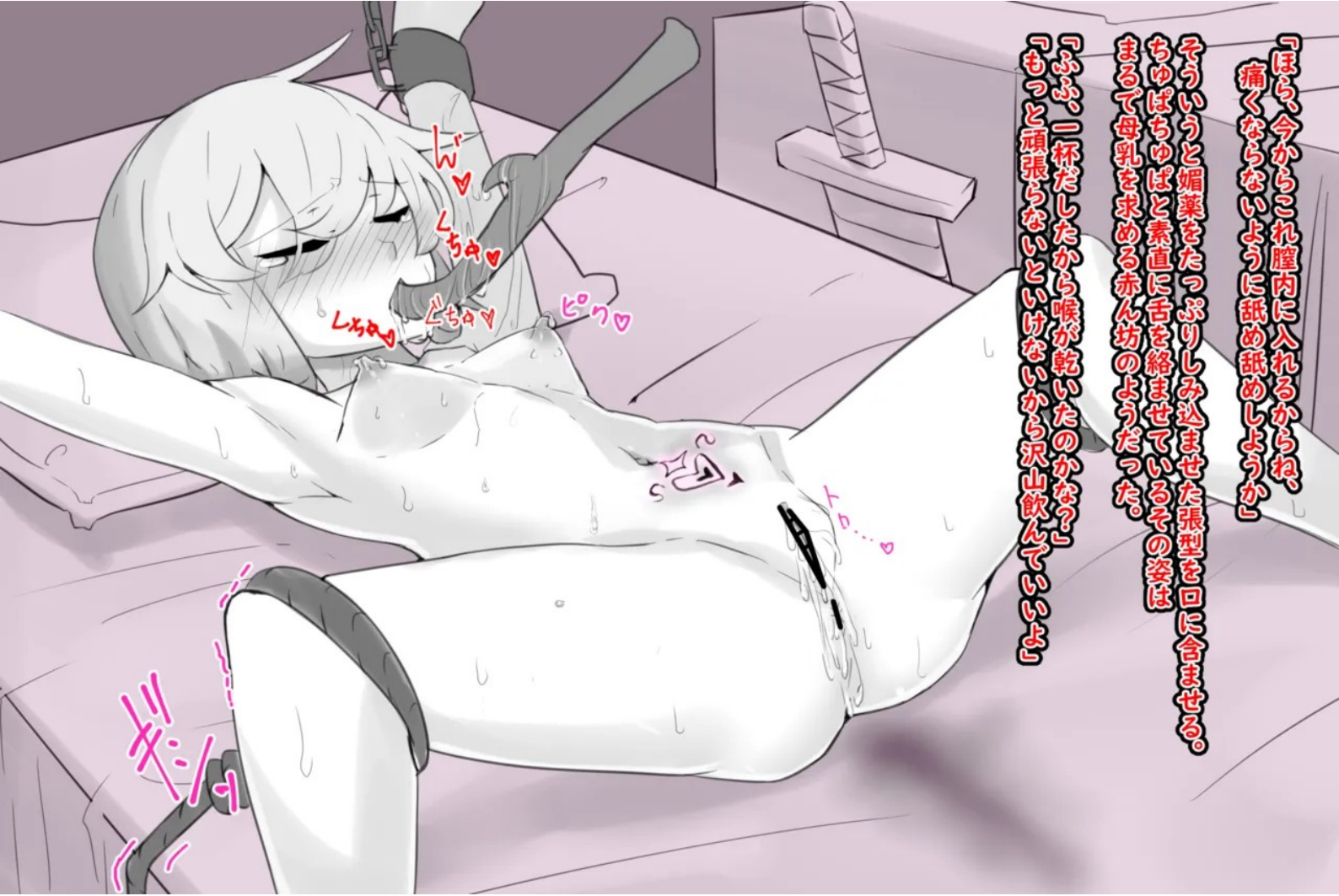
手と足をしっかりと拘束する、これなら多少暴れてもベッドから落ちる事はない。

そう例え今起きたとしてもこの子にはもうどうする事もできないのだ。

「ま、起こさないでっていうのが要望だから起こさないけど」

「さて、そろそろお楽しみのお薬と道具のお時間だよ」

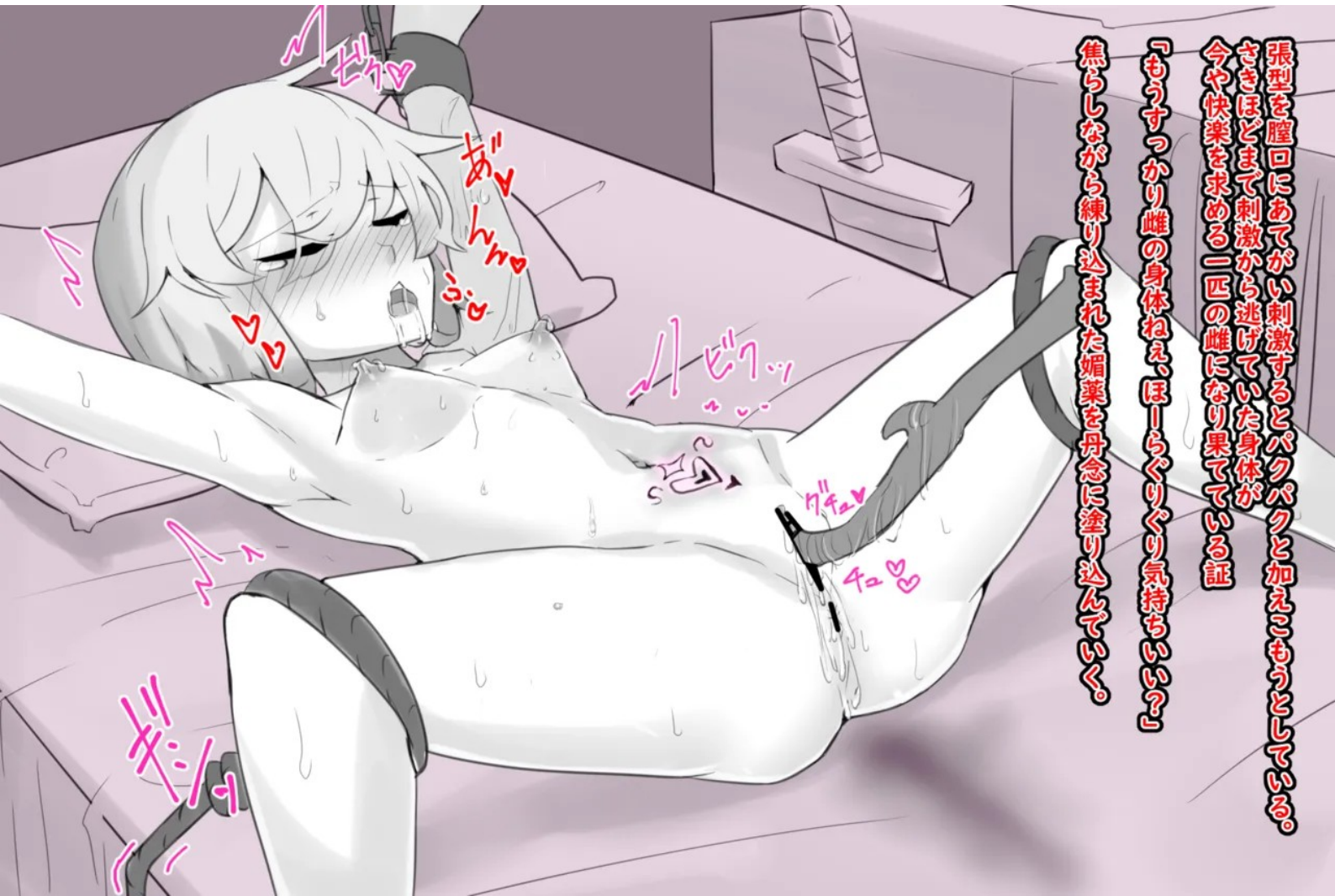




「ほら、今からこれ膣内に入れるからね、痛くならないように舐め舐めしようか」

そういうと媚薬をたっぷりしみ込ませた張型を口に含ませる。ちゅばちゅばと素直に舌を絡ませているその姿はまるで母乳を求める赤ん坊のようだった。

「ふふ、一杯でしたから喉が乾いたのかな？」
「もっと頑張らないといけないから沢山飲んでいいよ」



張型を膣口にあてがい刺激するとパクパクと加えこもうとしている。さきほどまで刺激から逃げていた身体が今や快楽を求める一匹の雌になり果てている証

「もうすっかり雌の身体ねえ、ほーらぐりぐり気持ちいい？」
焦らしながら練り込まれた媚薬を丹念に塗り込んでいく。

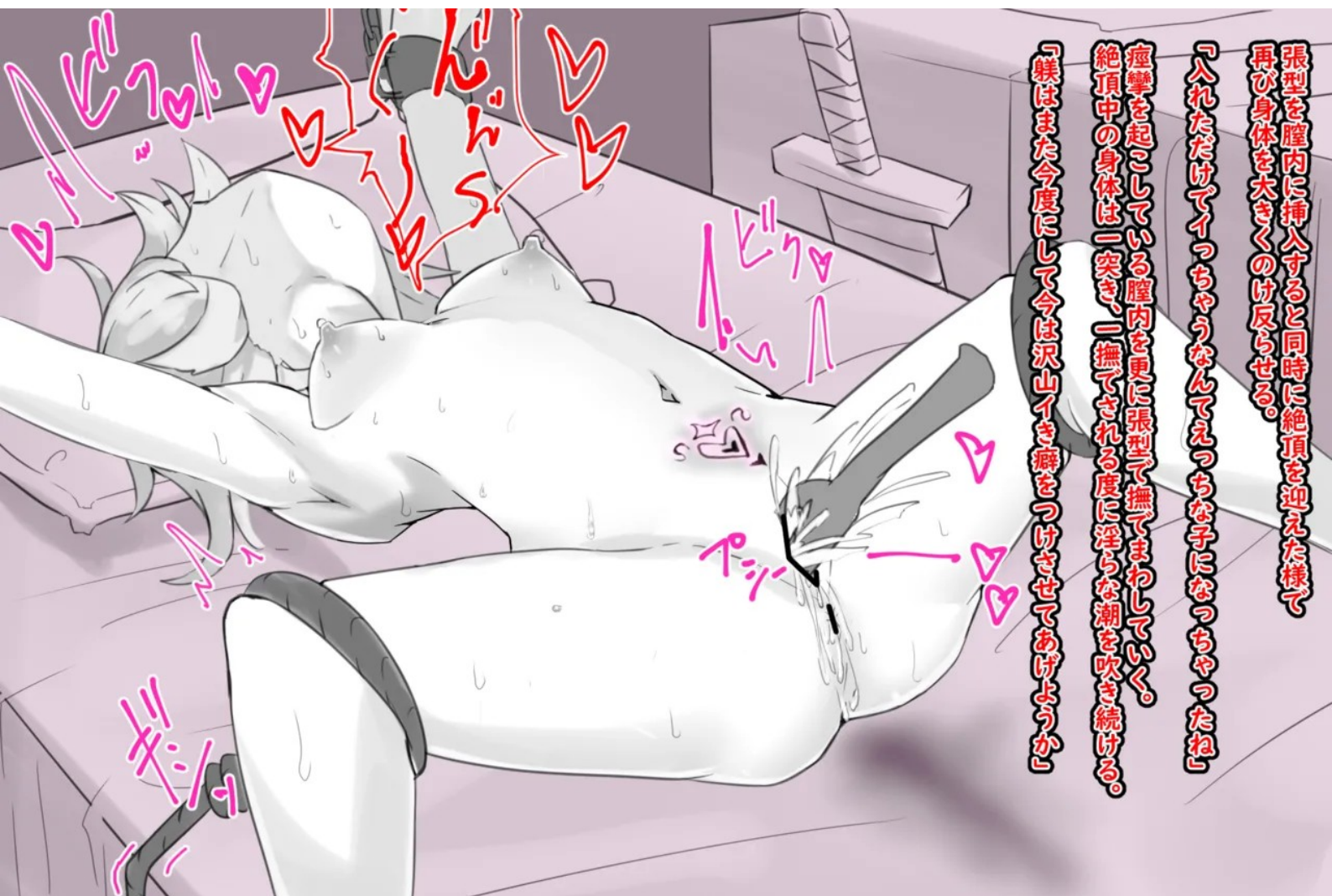
張型を膣内に挿入すると同時に絶頂を迎えた様で再び身体を大きくのけ反らせる。

「入れただけでイっちゃうなんてえっちな子になっちゃったね」

痙攣を起こしている膣内を更に張型で撫でてまわしていく。

絶頂中の身体は「突き、撫でられる度に淫らな潮を吹き続ける。

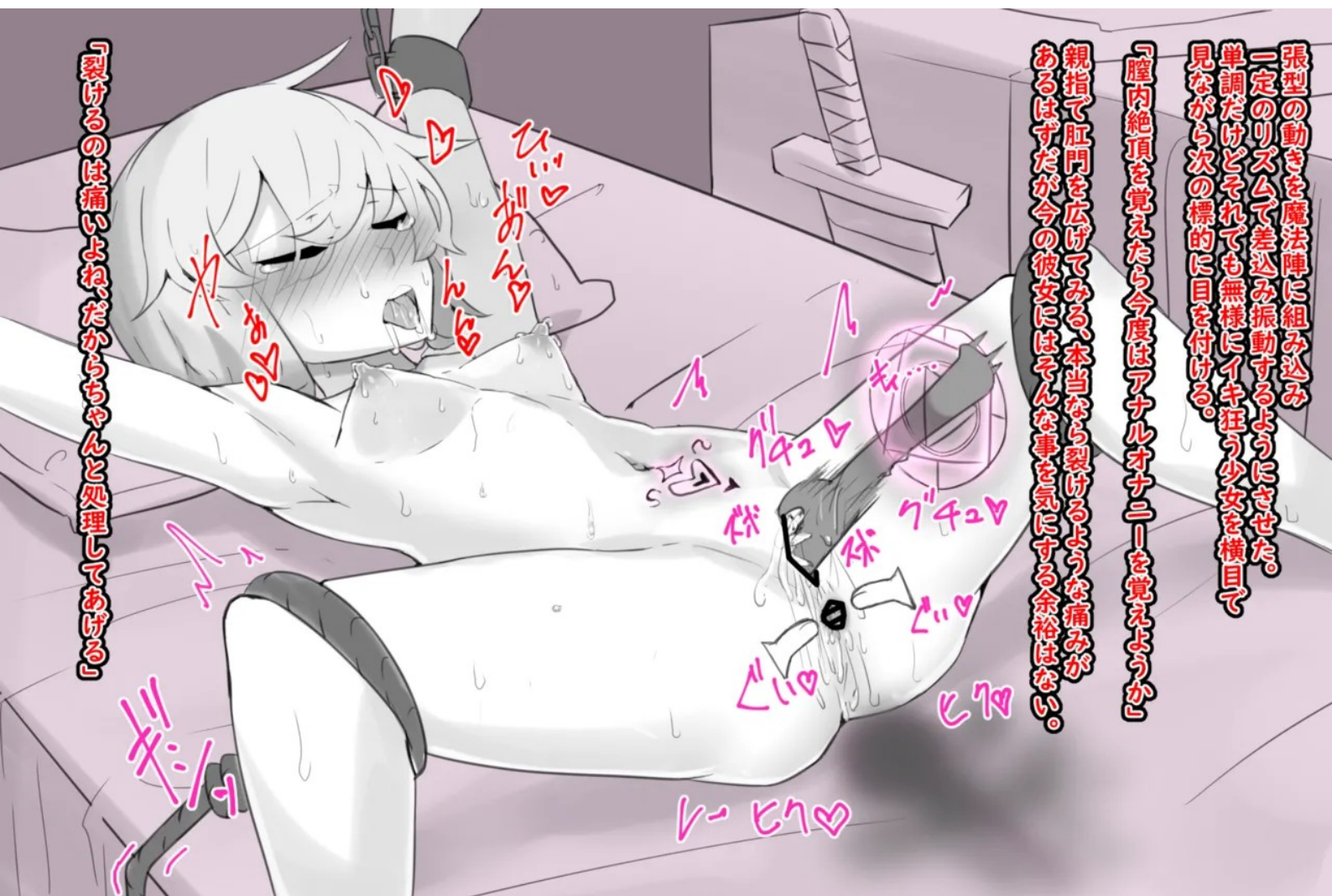
「騾はまた今度にして今は沢山イキ癖をつけさせてあげようか」



張型の動きを魔法陣に組み込み
一定のリズムで差込み振動するようにさせた。
単調だけどそれでも無様にイキ狂う少女を横目で
見ながら次の標的に目を付ける。

「膣内絶頂を覚えたら今度はアナルオナニーを覚えようか」
親指で肛門を広げてみる、本当なら裂けるような痛みが
あるはずだが今の彼女にはそんな事を気にする余裕はない。

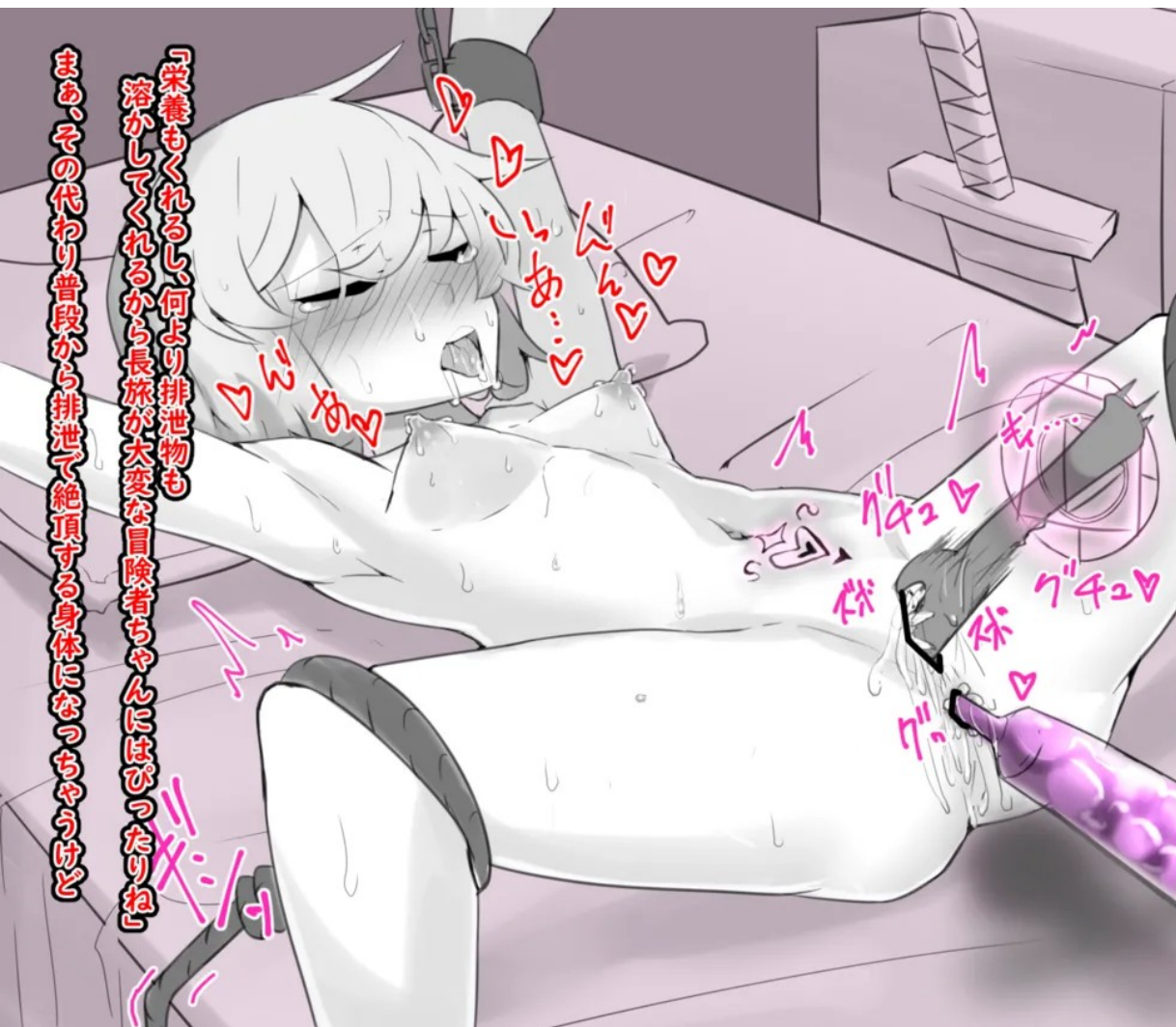
「裂けるのは痛いよね、だからちゃんと処理してあげる」



広げた肛門に洗腸器を宛がう、先に塗り込んでいた媚薬で人差し指ほどの大きさの先端も難なく入れる事ができた。

「すぐ使えるようにできるけど、それだと風情がないから今日は催淫スライムを洗腸する程度で留めておきましょうか」

少しずつ押し込んで腸にスライムを流し込んでいくお腹が満たされていく感覚が彼女を更に絶頂の渦に巻き込んでいく。



「栄養もくれるし、何より排泄物も溶かしてくれるから長旅が大変な冒険者ちゃんにはぴったりね」

まあ、その代わり普段から排泄で絶頂する身体になっちゃうけど

「はいこれでお願いします...」

最後の一滴までスライムを流し込む腸内で蠢く特性のスライムになすすべもなく弄ばれる。

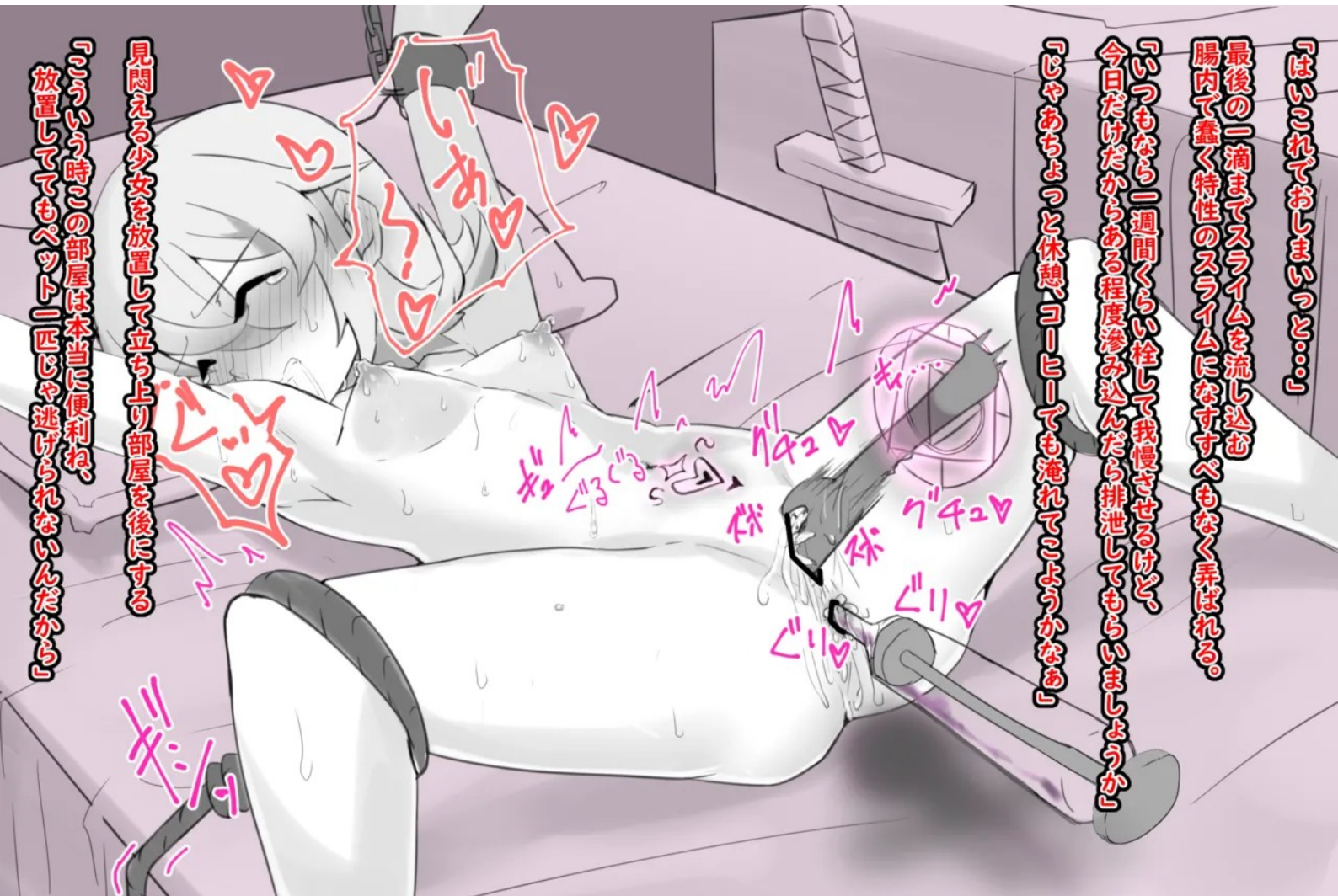
「いつもなら一週間くらい栓して我慢させるけど、

今日だけだからある程度しみ込んだら排泄してもらいましょうか」

「じゃあちよつと休憩、コーヒーでも淹れてこようかなあ」

見聞える少女を放置して立ち上り部屋を後にする

「こういう時この部屋は本当に便利ね、放置してもペット二匹じゃ逃げられないんだから」

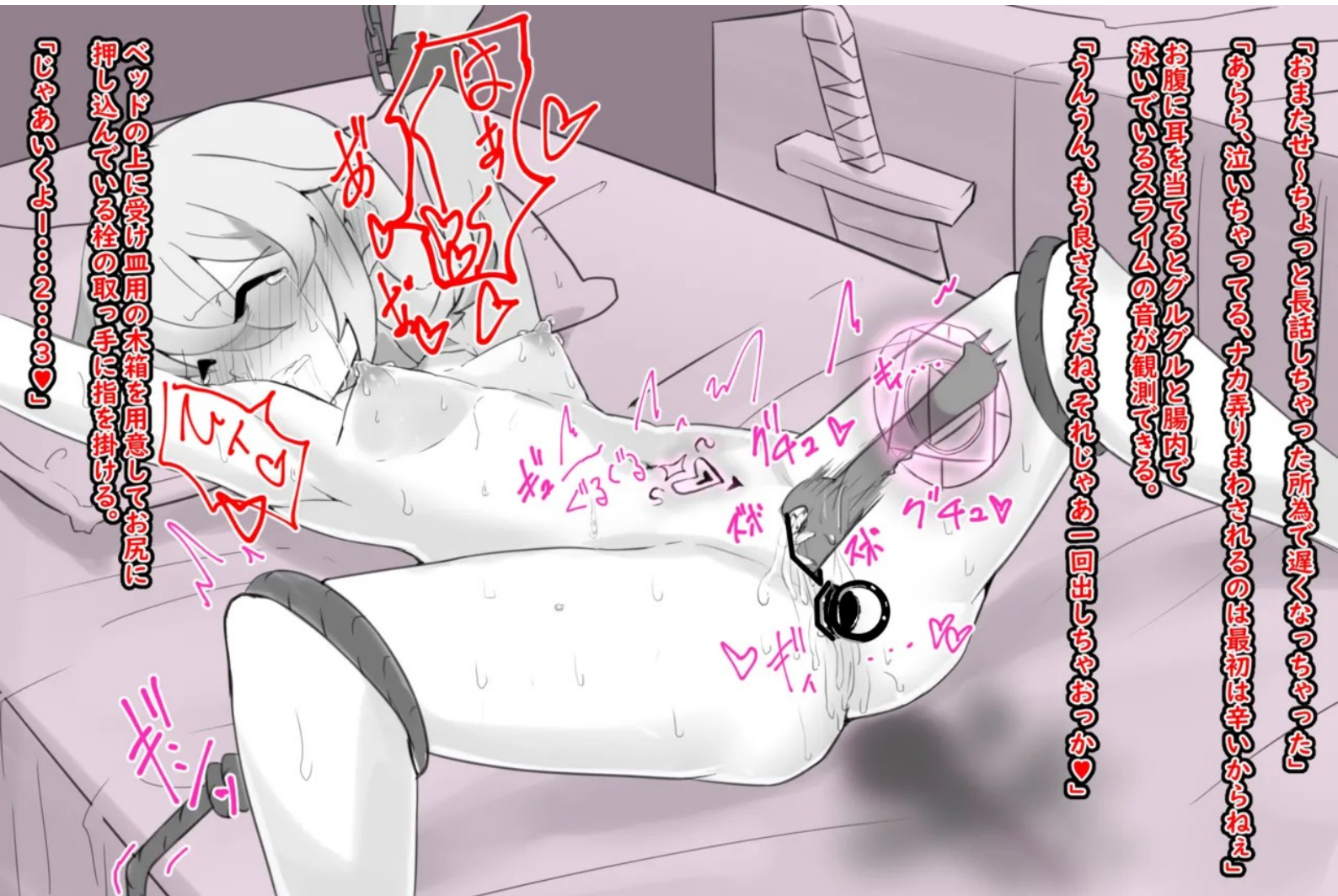


「おまたせ〜ちよつと長話しちゃった所為で遅くなっちゃった」

「あらら、泣いちゃってる、ナカ弄りまわされるのは最初は辛いからねえ」

お腹に耳を当てるとグルグルと腸内で泳いでいるスライムの音が観測できる。

「うんうん、もう良さそうだね、それじゃあ一回出しちゃおっか♡」



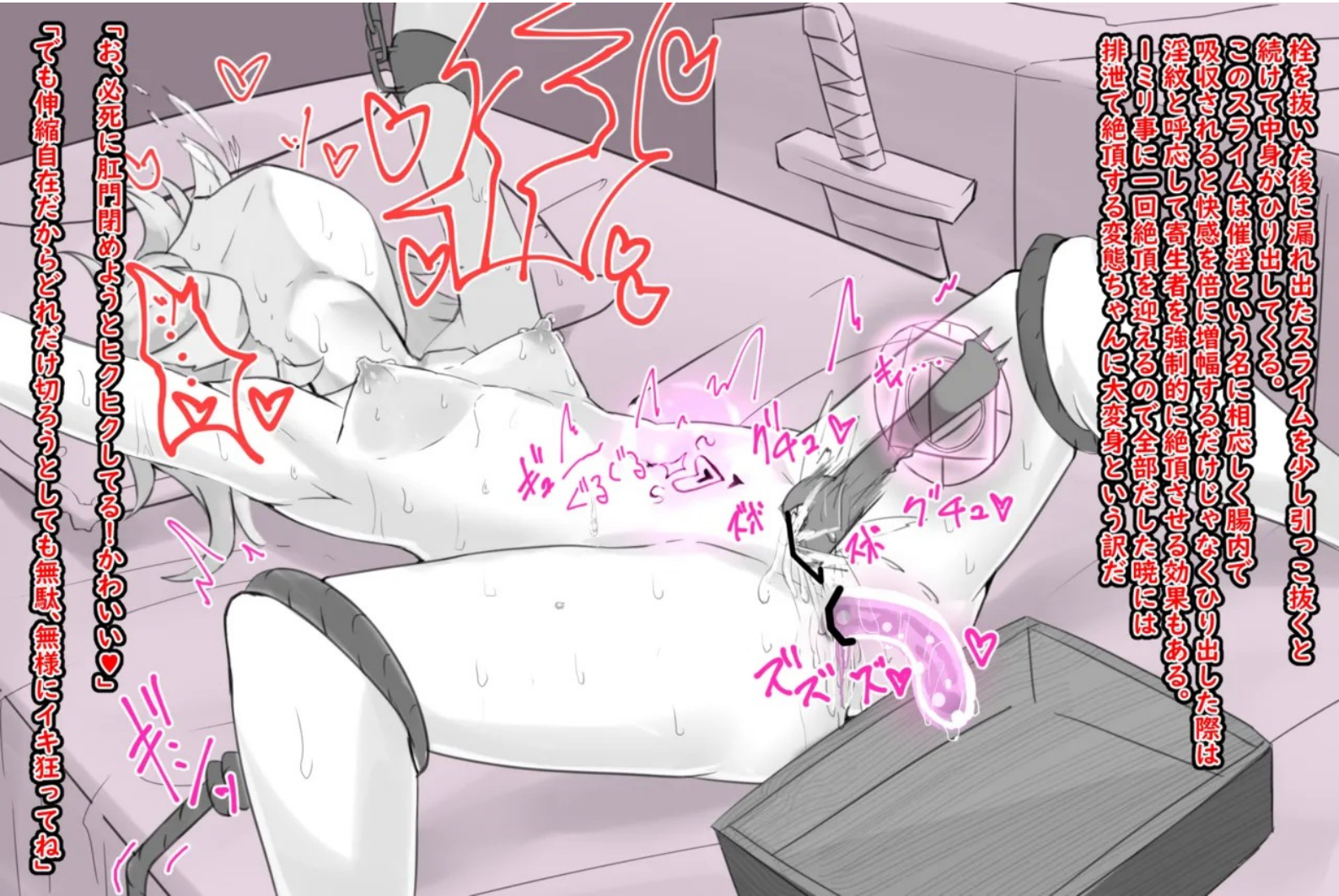
はあはあ♡
あ♡
ん♡

ん♡

ベッドの上に受け皿用の木箱を用意してお尻に押し込んでいる栓の取っ手に指を掛ける。

「じゃあ〜ん〜ん…2…2…3♡」

栓を抜いた後に漏れ出したスライムを少し引っこ抜くと
続けて中身がひり出してくる。
このスライムは催淫という名に相応しく腸内で
吸収されると快感を倍に増幅するだけじゃなくひり出した際は
淫紋と呼応して寄生者を強制的に絶頂させる効果もある。
一ミリ事に一回絶頂を迎えるので全部だした暁には
排泄で絶頂する変態ちゃんに大変身という訳だ

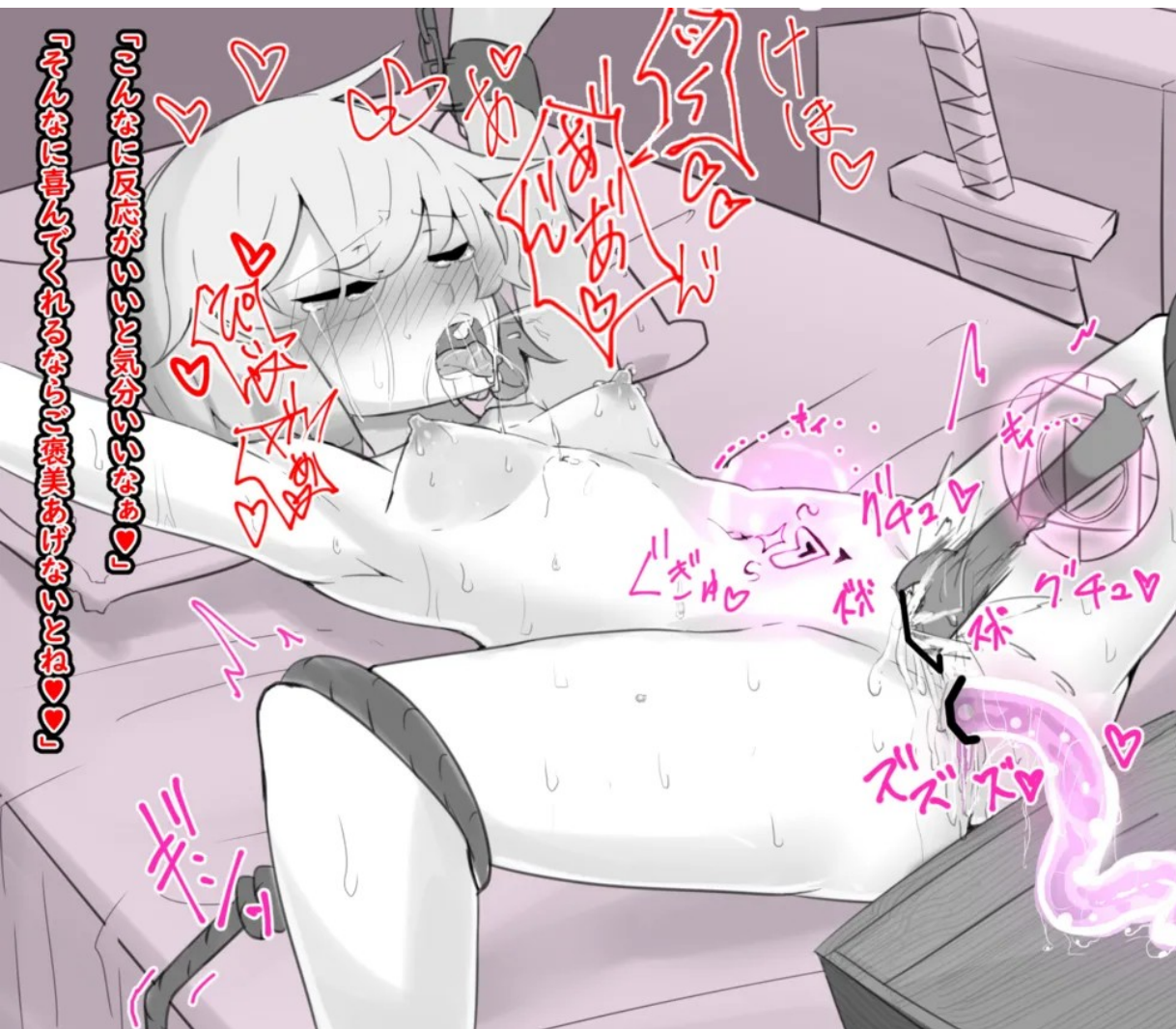


「お、必死に肛門閉めようとヒクヒクしてるーかわらららら♥」

「でも伸縮自在だからとれただけ切らうとしても無駄、無様にイキ狂ってね」

ひり出たスライムが15cmを超えたあたりから徐々に嬌声が甲高くなってきた。口からは涎をまき散らし、下もまるで噴水のように愛液をまき散らしている。

「最初はおんなにか細い声で喘いでたのにまるで黙ね」
無垢だった少女の身体は発情した野生動物のようにただ流し込まれる快楽に無意識に腰を振り続ける。



「そんな喜んでくれるなら綺麗あげないとね」
「こんなに反応がいらん気分いらなああ」

「ほら、ぐりぐり♡♡♡」

乳首を指でちよんと掴むとそのまま上に上げて捻り潰す。普通だったただ苦痛だけの行為も媚薬と淫紋、果ては催淫まで掛けられている今のこの子には強烈な痛みもすぐに快感へと変貌する。

「ひっぱって♡つねて♡ねじって♡プチプチ潰して♡」



責め方、やり方を変える度に彼女は喘ぎ声を上げてむせび泣く。

「ほんと、から素直だよ♡」

性感帯を同時に責め続けていると...

「あらら、細くなってきたから
もう少しだったのに我慢できずにおしっこ漏らしちゃったね」

張型で乱された尿が辺り一面に散らばる、
お漏らししたのが無意識でわかったのかより
一層頬を染めているように見える。



「ま、これだけ弄られたら仕方ないかもね」

「でもそれはそれ、お漏らししてシートを
汚しちゃう子には相応のお仕置きをしないとね」

棚に入れていた注射器を取り出して
中に先程より色濃く
妖艶に光る液体を注入する。

「これ入れちゃうと何かにしがみ
付いてしかおしっこ出来なくなる
くらい敏感になっちゃうけど」

少しだけ押し込んで液体が先端から漏れ出る。

はな♡

はあ♡

♡

♡♡♡

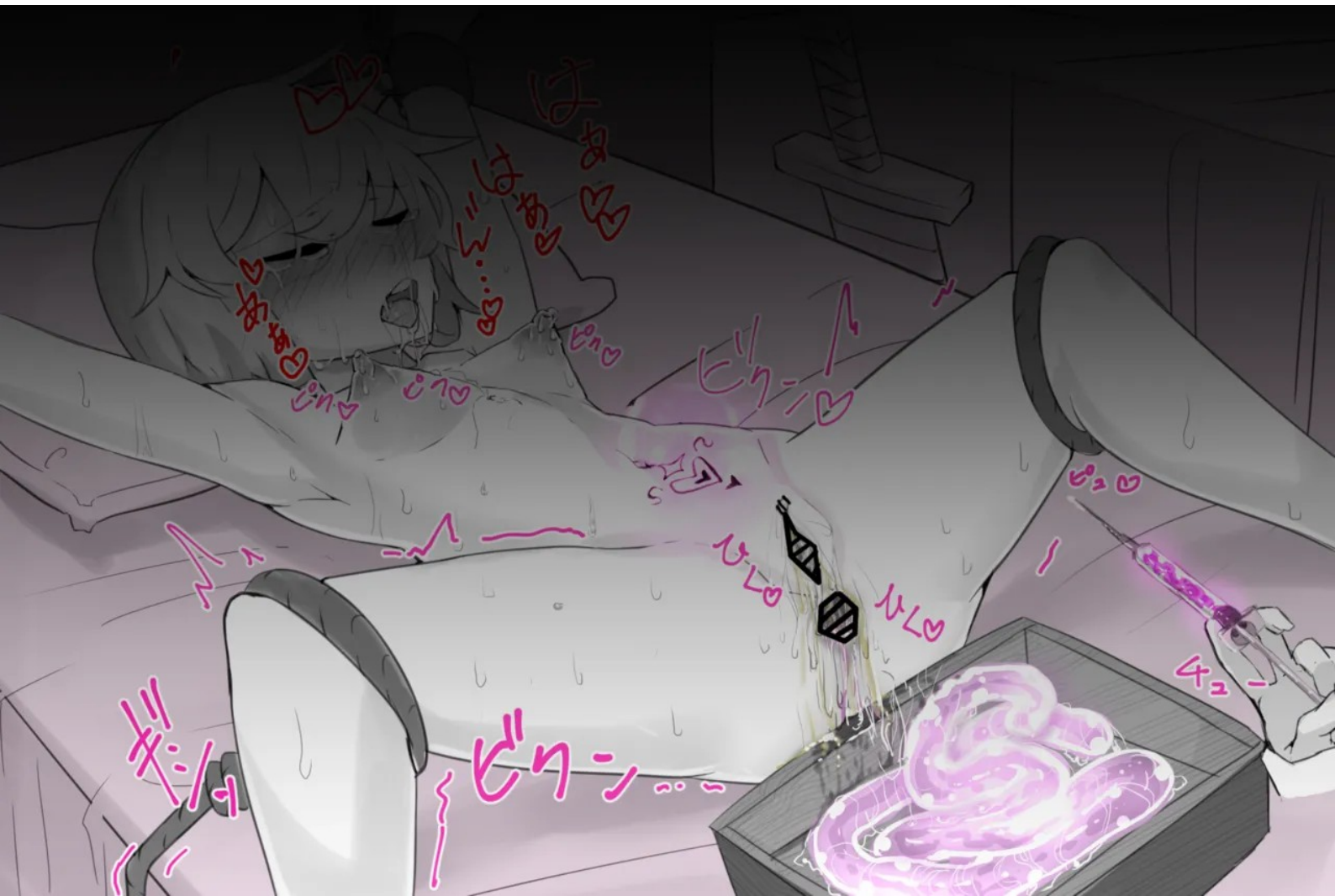
「ま、寝は最初が肝心というし

・粗相をしてしまう子にはこれくらいやらならどね」

先を少女の尿道に宛がいゅっくりと奥に入れていく。

「夜はまだまだ長いよ♡」

42



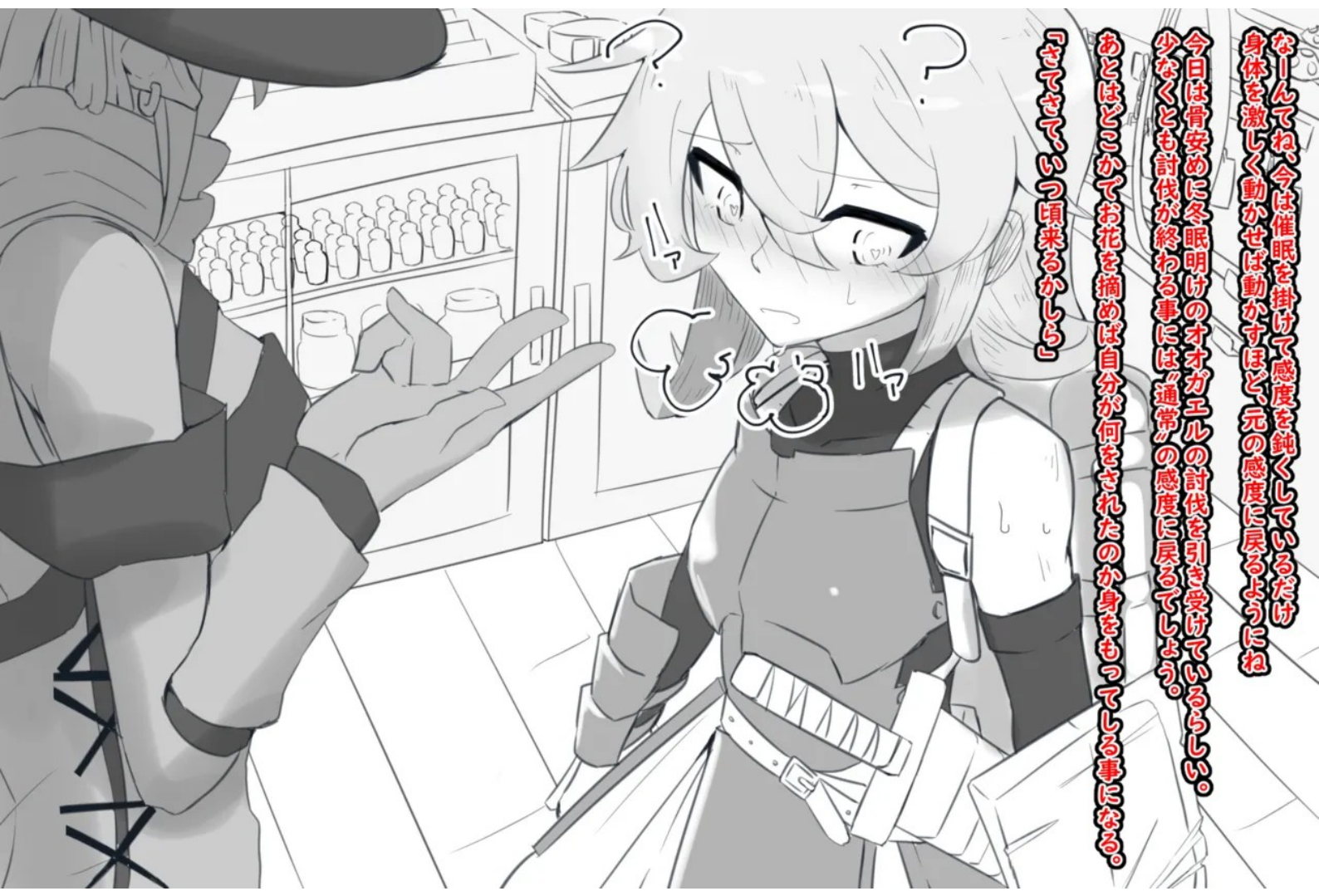


な〜んてね、今は催眠を掛けて感度を鈍くしているだけ
身体を激しく動かせば動かすほど、元の感度に戻るようにね

今日は骨安めに冬眠明けのオオガエルの討伐を引き受けているらしい。
少なくとも討伐が終わる事には、通常の感度に戻るでしょう。

あとはどこかでお花を摘めば自分が何をされたのか身をもつてしる事になる。

「さてさて、いつ頃来るかしら」



犬山 招子(いぬやま しょうこ)

- ・種族：人間(女)
- ・性格：楽観的
- ・職業：冒険者、剣士

◆装備

- ・インナー
- ・ロングスカート
- ・下級用の鎧
- ・鉄の盾
- ・アイアンソード

◆スキル

- ・回復(自動)
- ・言語理解
- ・身体強化
- ・魔法耐性(弱)

異世界からきた女の子
最初は戸惑っていたが
傷を即時回復させる能力と
異世界での言語を理解できる
能力のお陰で何とか冒険者として
やっていけている。
前パーティの女の子と色々あって
今はソロで活動している。



犬山 招子(いぬやま しょうこ)

- ・種族：人間(女)
- ・性格：楽観的
- ・職業：冒険者、剣士、接客、愛玩奴隷

◆装備

- ・インナー
- ・ロングスカート
- ・下級用の鎧
- ・鉄の盾
- ・アイアンソード
- 淫紋(解除不可)

◆スキル

- ・超・回復(自動)
- ・言語理解
- ・超・身体強化(性欲増大)
- ×魔法耐性(無効)
- ・感度上昇(媚薬)
- ・感度倍化(催淫)
- ・淫乱化(淫紋)
- ・発情(淫紋)
- ・催眠(身体能力操作、記憶操作)
- ・魅了(女性特攻、無意識)
- ・誘惑(女性特攻、無意識)
- ・強制命令(主人、指名客)
 - 解呪禁止
 - 自慰禁止



うう…最初は調子
良かったのに最後辺り
凄く気怠かった…

頭もぼーとして
身体も熱いし
私病気なのかな？

今日はもうクエストも
クリアしたし報酬
貰ったら休もう…
今だったらまだ宿も
空いてるだろうし

最悪またあの
お姉さんの所に
行けばいいか…

うう…





知らない♡
おあ♡
ハッ♡
グッ♡
ア♡

おあ♡
おあ♡
おあ♡
おあ♡

何♡
お♡
お♡
お♡

ハッ♡

ハッ♡

グッ♡

ア♡

ハッ♡

ア♡

ア♡

あ、あのちょっとー!?

ああ、この前の…

えと…!この間泊めて貰った時にその…っ!?

落ち着いて…一体どうしたの?

と、泊めてもらった日からか、身体おかしくって…
熱くって感覚もなんか変で…

トイレはどう？

……え？

はい、せ、つ…おしっこが出してる間ずっと感じちゃうでしょ？
身体を洗う時も布で拭くと感じすぎて上手く出来なかったり

じ、じゃあやっぱり貴女が…？

うぶなお嬢ちゃんには素敵な体験だったでしょ？

だ、騙してたんですねッ!?

騙すなんて人間きの悪い、貴女は宿で寝たかった、私は仕事をした
お互い了承の上での行為よ

それに「自分が寝た後は好きにしていって
言ったのはお嬢ちゃんですよ？」

…ッ！それは…と、とにかく元に戻してください！

別にいいけど、また私を指名してくれるならいいよ
前は初回サービスだから取らなかつたけど
どうする？払わないならこのまま行くよ

う…わ、分かりました、いくらですか？

そうねえ、指名料と身体を元の状態に戻す薬を
合わせて200万Gくらいかな

20…え？そ、そんな額…

ならば今はダメね、必要な額が揃うまで頑張って稼ぐのね
最もそんな身体じゃあ、碌なクエストには出れなさそうだけど

……

難しいよね、だからこうしない？うちで働くの

働く……？

そう、うちで接客の仕事をするのはどう？
お金も稼げるし、身体の疼きも解消してあげる。

(…確かにいい話だけど、また毘かも、でも今の身体じゃ…)

どうする？このまま200万貯めるまで頑張るか
それともうちで働きながら慰めてもらうか選ぶのは自由だよ

うう……

……そ、じゃあ頑張ってるね

うあ……ま、まって、まってください……
わ、わかりました、た……働きます、だからか、身体の……
疼きを、止めてください……♡
ずっとムズムズして頭おかしくなりそう、なんです……♡

……いいよ、じゃあお店行こうか♡

風俗店で働く事になつて怖かつたけど働き場所は一階の飲食店で接客だった

店に来る人も女の子だけって聞いたから変な事される事はないと思うし副収入としてはいいかも…

ありがたしお礼に格納...
...運こんでやっや...

服かわいいー♡
いくらっ？



あ、甘かった…
あの人經由なんだから
そういうお店だよね
やっぱり…

命令
注文には逆らえないから
服も全部買い取られちゃったし
隠したくても手が動かない…
おまけにみんな私にオーダー
してくるから裏に帰れない…

五人目…

…はい
おかりました…

ねえ♡♡
×(っキ)のワイジン
口移ししてくるの？

うう…恥ずかしい…
ギルドで会う人も
何人かいるけど
バレてませんように…





「ぐふっ……ふッあ!♥」
「っ……す、すまん、んぐっ……
こういう事に、慣れてなくて……っ」
「い、いえ……らい、じょうぶうれす……ん♥
ゆ、ゆっくりで……っいいので……♥」
「んっ……わ、分かった……じゃあ、もう少し頼む」
「ふあい……♥」

高等魔法使いE(常連)



「あんっ♥な、何を♥♥♥」
「れろ……何って貴女が溢した
ワインを舐めてるだけよ?」

「ふえ♥♥ちくび♥吸っちや……ッ♥♥」

「だってここに一杯垂れてるから
仕方ないでしょ?新人ちゃんがだらしなから
私が世話してるのよ寧ろ感謝してほしいわ」

「んああ……♥」「ほらお礼♥♥(ぐりっ)」

「いい……♥ごめんなひあいッ……♥
舐めとって頂いてありがとうございます♥」

ほぼ全裸で接客する
羽目になりお客様から
大変な目に合わされてた
初日の夜……

終わると来るように
言われていた部屋に行く
あのお姉さんとお客様(女)
が一糸纏わぬ姿でお互いを
慰め合っていた

四肢を拘束された人が艶めかしい
液体を塗り込まれ悶えている
所に膣内に張型で責めながら
スライムで浣腸など凡そ
一般では考えられない
過激なプレイの数々……

すぐ出ていこうとしたけど
部屋で待つように命令され
プレイを見る事を強要された……

拷問に近い責め苦のはずなのに
垣間見えるお客様の笑みが
快楽を得ていると分かる……
改めて私は怖ろしい人に目を
付けられたと恐怖した……



...

①
ち、ちゃんと着ましたか？
これでいいですか？

114

114

③
と、当然です...
早くお金を貯めて
こんな...身体...
元に戻りたいので...



⑤
も、勿論今日の
足りない分も
後で必ずお支払い
します...

⑥
あ、あの...さっきから
沢山ものを置いてる音が
聞こえるんですけど
ふ、普通でいいですかね？

②
かわいい...いえ
そ、それより忘れて
いないですよ
あの約束...
主従契約で縛る代わりに
冒険者も続けていいと
いう取り決め...

④
今日は...その
自分で触るの
怖くて...仕方なく

⑦
さっきみたいなの...
あ、あの...
聞いてますか？
おね...ご主人様？



「ん♥何言ってるのか全然わかんない♥
「もっ」と気持ちよくくっつくんだから♥「かな?」
。。。さっきのは聞かなかったことにしてあげる
私ね自分の楽しみを邪魔されるの嫌いなんだ
客なら我慢出来るんだけど所有物にも言われるの
すごく腹が立つの。。。だからちよつとお仕置きするね」

「♥♥♥」

「おっと。。。ついうっかり拘束具を転送しちゃった」

「♥♥♥」



